

北 潟 湖

事務局：あわら市市民生活部生活環境課
TEL:0776-73-8017
E: seikatsu@city.awara.lg.jp

ニュースの内容

- 1 活動の紹介
- 2 おしらせ



青海会長挨拶



富永先生講演



奥村先生講演

<お知らせ>

2017年度
北潟湖フォーラム
「北潟湖のめぐみを感じよう！」
★寒フナ地引き網体験などを予定。

・2018/3/3
・北潟公民館

多くの参加をお待ちしています。

2017 北潟湖調査研究報告会 I

●北潟湖に関心のある皆さん 集合！
5月15日(月)

[内 容] 北潟湖の塩分環境の変化と魚
[研究報告]
・富永 修 氏 (福井県立大学教授)
・奥村 充司 氏 (福井高専准教授)
■皆さんのお話しも聞きながら充実した会にしたいと思います。

●申し込み不要です！ お気軽にどうぞ！
時間： 午後7:00～9:00
場所： 北潟公民館
主催：北潟湖の自然再生に関する協議会

■北潟湖の塩分濃度の変化と魚 富永 修 氏 (福井県立大教授)

- ・2010年は、ブルーギル、フナ、コイなど淡水魚とハゼが多かった。
- ・2015年9月調査では、淡水魚が激減
- ・今年、淡水魚が獲れた。どこかに避難していたのではないだろうか。
- ・2016年8月のデータでは、水深1.5m位から下には海水が滑り込んできて上に低塩分水が乗っている。
- ・水門によって塩分をコントロールできるのではないかと考えている。
- ・塩分濃度は、降水量や低気圧との関係、風向、風圧など総合的に関係を検討する必要がある。
- ・淡水魚やシジミのことを考え、塩分濃度管理をどうするか決める必要があると思う。

■北潟湖の水質改善を目指した3つの観点からの研究(概要)

奥村 充司 氏 (福井高専准教授)・奥村研究室

- ・近年、海水の流入により、湖底部に海水が遡上し、塩分濃度の高い層が生成され、海水の上を淡水が流下することで、その間に明瞭な境界面が存在する塩水くさびが生じている。
- ・夏季に塩分濃度が上昇し、秋以降も塩分が残留して、下層には貧酸素層が形成されている。
- ・水門が開いていても海水が流入してくる。
- ・水門は水位差だけでなく、塩水と淡水の2層で管理する必要はないか。昔はできていたのでは？

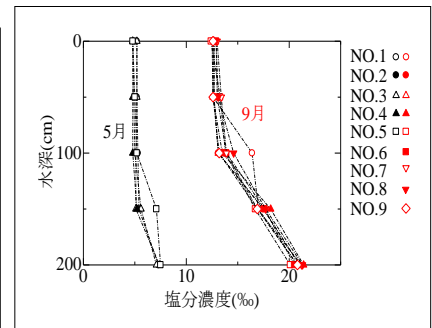


図-3 実地塩分濃度調査結果 南湖

会場での意見交換の内容

- ・湖の水位は8月は高く、1月は低い。出入りの水の量は季節で変化する。
- ・海から入ってくる栄養分もある。植物プランクトンなども海から入ってくる面もある。季節によって入ってくるものが違う。
- ・観音川の水量なども減っているのではないだろうか。
- ・マブナは獲れるのだがヘラブナがいない。2年連続して不漁で困っている。資源保護の面から、ヘラブナが生きていける塩分濃度にして欲しい。
- ・鹿島の森付近の河口浚渫や水門が広がったので塩分濃度が高くなったのでは。
- ・塩分濃度を下げるとブルーギルは増えるのではないか。
- ・野鳥の構成種なども激変している。頭の黒いやつばかり目立つ。
- ・大聖寺川の淡水と季節による塩分濃度変化に注目したい。
- ・塩分濃度が低い淡水を遊ばせておく「浅場」を創出するが必要であるではないか。

<赤尾湿地自然観察会>

あわらの自然を愛する会



- ・2017年9月20日 午前・午後 2回実施
- ・参加者:①細呂木小3・4年生 24名 総計43名
②北潟小5・6年生 19名 総計38名
- ・「湿原とは」「湿原にはどんな植物が生えているか」
「北潟湖にとってなぜ湿原は必要か」
「湿原の南側と北側で植物の違いはあるか」
などの観点で「あわらの自然を愛する会員」の説明を受けながら観察した。

<細呂木小学校の皆さん>



<北潟小学校の皆さん>



<休耕田を利用したフナの増殖や水生生物の生育環境整備>

北潟湖生きもの応援隊



①水路や池を造成



2017/4/12

②藻がないので人工藻製作



2017/4/18

③遡上するフナ



2017/4/20

④人工藻に生み付けられた卵



2017/8/11

⑤約4cmに成長したフナの稚魚:サギなどが狙っている。

- 2017年は人工産卵床で、フナ産卵約300万粒
稚魚は、約400匹をカウント。
- メダカ、ナマズ、コイ、ニホンアカガエルなど確認
- 圃場整備以前は、魚の産卵場やゆりかごだった水田は
現在は、魚が湖と行き来できない場所になっている。

<鳥類生息状況調査>

福井県自然保護センター
日本野鳥の会福井県

- 専門家による鳥類生息状況調査
(・2016年:秋季 ・2017年:春季・秋季)
- ・標識調査による小鳥類の通過状況の把握と渡りルート解明への寄与
- ・センサーカメラによる潜行性鳥類確認調査
- 成果:中池見湿地のラムサール条約登録に寄与し、
日本でしか繁殖していない「ノジコ」が渡りの中継地として利用している可能性が高い。

ペットや小動物に関するアンケート調査実施(集計中)

- ・アカミミガメなど、様々な外来種が、捨てられたり逃げたりして、様々な問題を起しています。
市内全小中学校でアンケート調査をお願いしました。